

IV. 結果の整理

地域の住民が望む水路や水路とのつながり、水路環境を少しでもよくするための方法について、出された意見や課題を整理し、地域でめざす方向性、取組みを整理します。

1. 意見の整理

様々な意見の内容をまとめるために有効なワークショップの手法 KJ法（文化人類学者 川喜田次郎氏が開発）で意見を集約させます。

手順

地域の住民が望む水路や水路とのつながり、水路環境を少しでも良くするための方法について、検討された意見や課題を1つの意見などに対し、1枚の付箋（ふせん）に書き留めます。

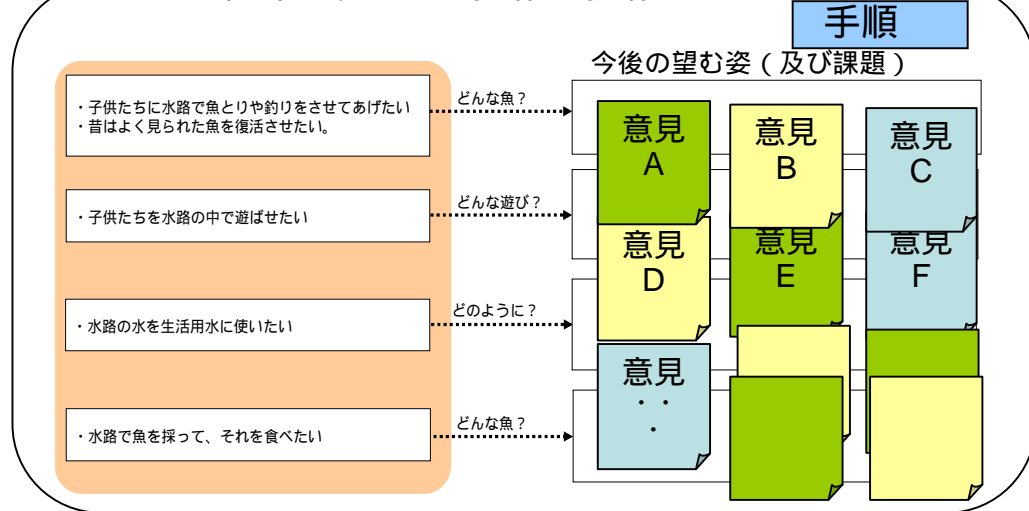
手順

似ている意見の付箋を集め、グループを作り意見を集約させます。

手順

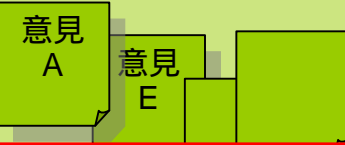
集約させた意見どうしの関連性を整理し、地域でめざす方向性や、取り組むことなどを検討します。

1. 地域の住民が望む水路や水路とのつながり



手順

例)
A：昔よく見かけたアユモドキを復活させたい。
E：昔はフナがいっぱいいたよ。



魚を復活させたい

例)
C：水路で魚とりなどして遊んだものだ。
F：水路に魚を増やし子供達を遊ばせたい。



遊び・レジャーに活用したい

例)
B：昔は水路で野菜を洗ったりしたが、今は水質がわるい。
D：農薬が水路に流れ込んでいるし、魚は食べたくない。



水質を改善すべき

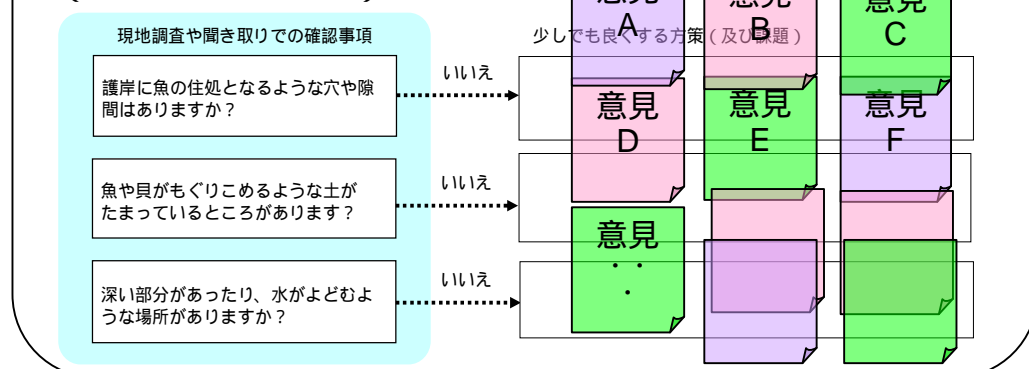
手順

地域で目指す方向性をまとめます。

水路環境を少しでも良くする手法について同様の手法で整理します。

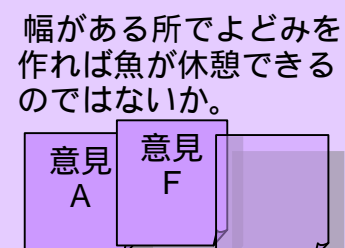
2. 水路環境を少しでも良くする手法

(1) コンクリート三面張りの部分が多い
(水路構造を知る)



手順

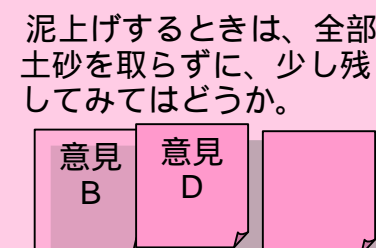
例)
水路幅に余裕がある所に魚の住処となるような石を置いてはどうか。



意見 A

意見 F

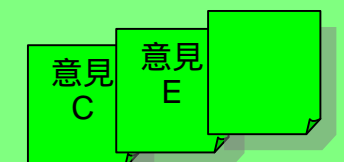
例)
水路の底に少しだけ土砂がたまるように石やブロックを置いてみよう。



意見 B

意見 D

例)
老朽化していて、断面が不足しているため、改修を要望しているが、次の工事には魚がすめるような水路にしたい。



意見 C

意見 E

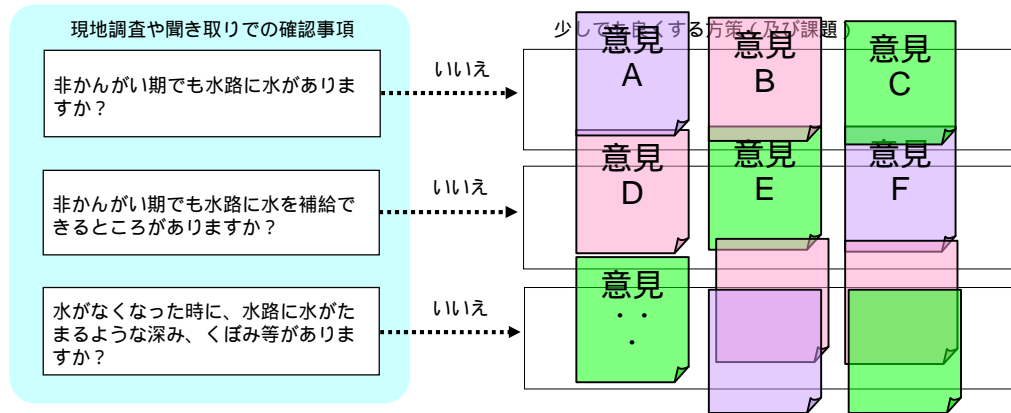
手順

集約させた意見どうしの関連性を整理し、取り組むべきことなどを検討します。

2. 水路環境を少しでも良くする手法

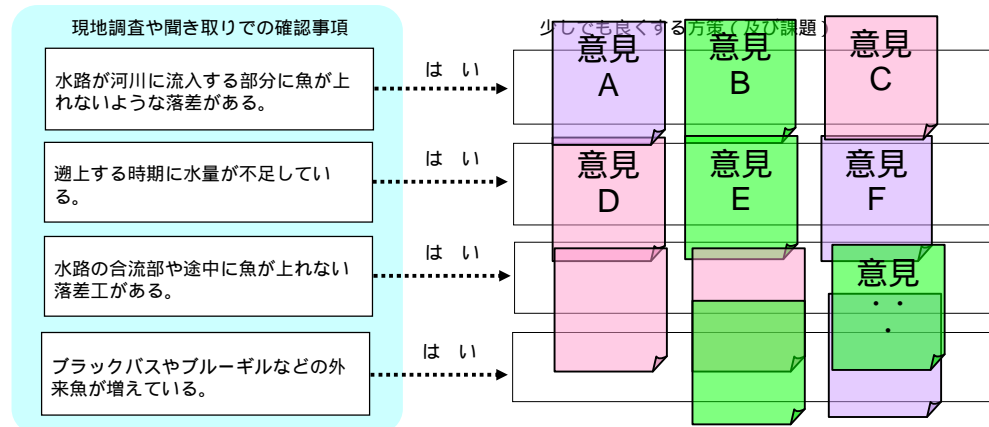
手順

- (2) 水路周辺の環境が悪くなった(水路周辺の環境を知)
- (3) 非かんがい期に水のある場所が減った、なくなった(水の状況を知)
- (4) 湧き水や沢水のある場所が減った、なくなった(水の状況を知る)



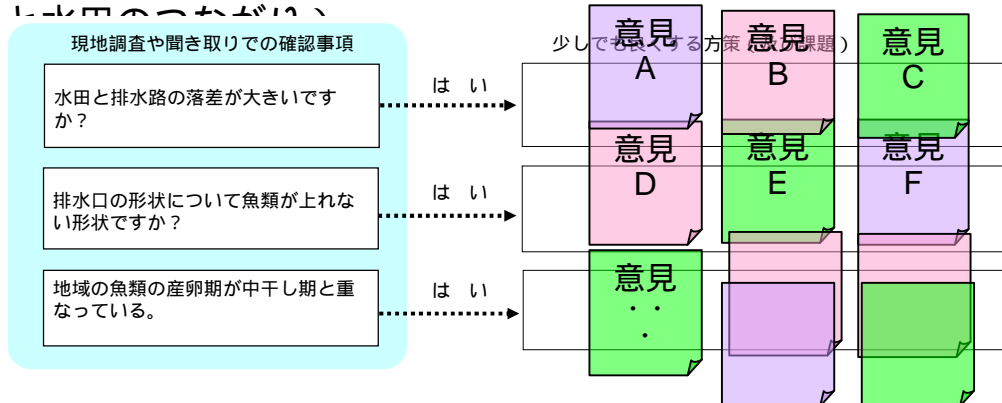
(5) ウナギ、アユなどがいなくなった(海までのつながり)

ナマズやフナなどがいなくなった(水路と河川をつながり)



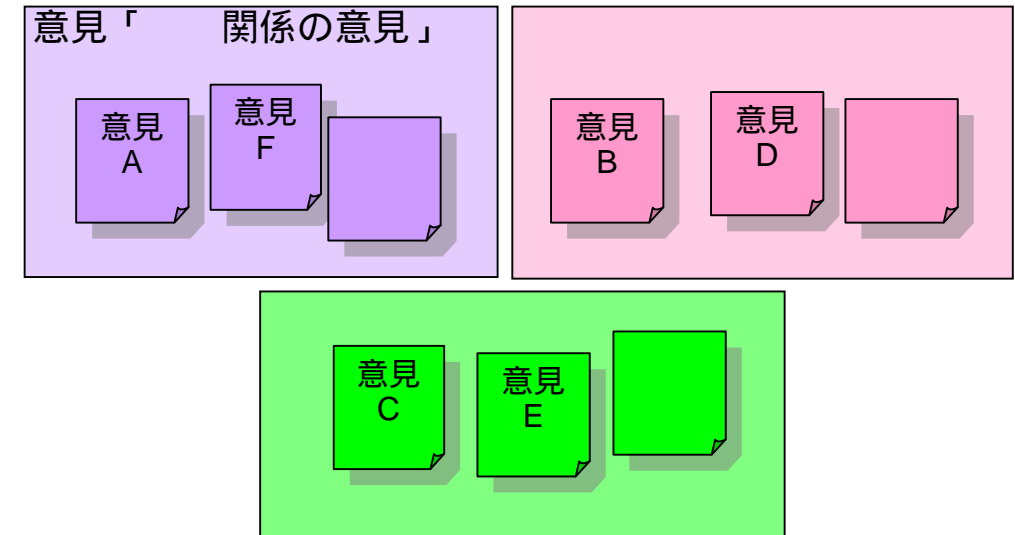
いずれも「いいえ」の場合 対象水路以外の場所に原因があります。関係機関などに相談することが考えられます。

(6) 田んぼにフナやナマズ、ドジョウが上らなくなった



他の、水路環境を少しでも良くする手法についても同様の手法で整理します。

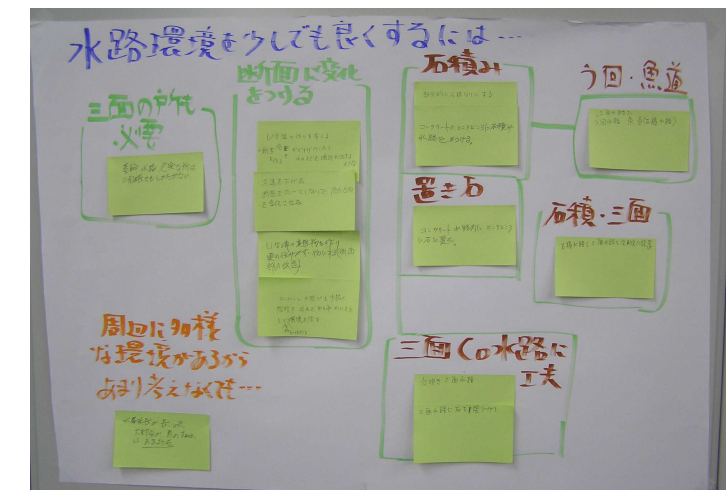
手順



手順

集約させた意見どうしの関連性を整理し、取り組むべきことなどを検討します。

作成例



2. 結果の取りまとめ図の作成


取りまとめられた、地域住民が望む水路や水路とのつながり、水路環境を少しでも良くする手法、具体的な場所などを平面図に記入し取りまとめます。

ワークショップ（取りまとめ図のイメージ 例）

地区水路評価 テーマ「むかし見た魚を復活させよう！」

例)
水路幅に余裕がある所に魚の住処となるような石を置いてはどうか。

幅がある所でよどみを作れば魚が休憩できるのではないか。



例)
水路の底に少しだけ土砂がたまるように石やブロックを置いてみよう。

泥上げするときは、全部土砂を取らずに、少し残してみてもどうか。

例)
老朽化していて、断面が不足しているため、改修を要望しているが、次の工事には魚がすめるような水路にしたい。

地域の住民が望む水路や水路とのつながり の意見

魚を復活させたい	遊び・レジャーに活用したい	水質を改善すべき
昔よく見かけたアユモドキを復活させたい。	水路で魚とりなどで遊んだものだ。	昔は水路で野菜を洗ったりしたが、今は水質がわるい。
昔はフナがいっぱいたよ。	水路に魚を増やして子供達を遊ばせたい。	
農薬が水路に流れ込んでいるし、魚は食べたくない。		

維持管理に関連する方策など

3. 水路環境を良くするための手法の位置付け（作成例）

取りまとめられた、水路環境を少しでも良くする手法について、「誰が？」実行すべきか、「いつ頃？」実行すべきかを、下記の表に記入します（付箋に記入し貼り付けても構いません）。
 すぐに取組める小規模なことや、長期的に考えることが必要な大規模なことなど取組みの位置づけをします。

水路環境を良くするための方法の位置付け		誰が？					
		行政		土地改良区	地区（地域）	個人	
		取組みの規模（大）		（小）			
いつ頃？	短期				例）泥上げするときは、全部土砂を取らずに、少し残してみてもどうか。	例）水路の底に少しだけ土砂がたまるように石やブロックを置いてみよう。	
	中期			例）水路幅に余裕がある所に魚の住処となるような石を置いてはどうか。			
	長期		例）老朽化していて、断面が不足しているため、改修を要望しているが、次の工事には魚がすめるような水路にしたい。	例）幅がある所でよどみを作れば魚が休憩できるのではないか。			
維持管理に関連する方策など					例）草刈にあわせて、生きもの調査を行政・地元小学校と協力しあわせて開催してはどうか。 専門家の先生に来てもらって、生きもの解説をしてもらう。		

3. 水路環境を良くするための手法の位置付け

水路環境を良くするための手法の位置付け		誰が？					
		行政			土地改良区	地区（地域）	個人
		取組みの規模（大）		（小）			
いつ頃？	短期						
	中期						
	長期						
維持管理に関連する方策など							

4. 取りまとめ表 (参考)

全体の実施状況の概要を取りまとめ、参加者へフィードバックすることも大切です。

水路の現状の状況

水路環境の変化の把握 (調べた水路の環境変化を把握する)

地域の住民が望む水路や水路とのつながり (将来像)

水路環境を良くするための方法

		実施者	維持管理方策
実施時期	短期		
	中期		
	長期		

生きもの豊かな農業水路をめざして

～生きもの環境評価ツールを
使って身近な水路の環境を考えよう～

平成 19 年 3 月

本書及び、補助ツール（下敷き）は
生きもの環境水路評価事業 検討委員会での検討を得て作成したものです。検討委員会の構成は
以下のとおりです。

【検討委員会】

委員長	東京農業大学客員教授	守山 弘
委員	（独）農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 生態工学研究室長	奥島 修二
委員	近畿大学農学部環境管理学科教授	細谷 和海

（委員は 50 音順で記載）

【事務局】

農林水産省

農村振興局企画部資源課

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-1 FAX 03-3502-6571

課長補佐（環境保全班）TEL 03-3502-8111(4746)

環境評価係長 " (4747)



（社）農村環境整備センター

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 11-8 ファースビル 2F

TEL 03-5645-3671 / FAX 03-5645-3675

URL <http://www.acres.or.jp>

< 編集 > 松野 肇 前農村環境整備センター主任研究員
石黒徳広 農村環境整備センター 研究員

本ツールを参加者等へ配布する場合は、インターネットからデータをダウンロードし印刷・配布してください。掲載しているホームページ、本書、補助ツール（下敷き）等のお問い合わせは事務局までお問い合わせください。